

ともに挑む。ともに実る。

MIZUHO みずほ銀行

2025年11月4日

みずほディーラーズアイ (2025年11月号)

みずほ銀行

目次

米ドル相場/ユーロ相場	2	韓国ウォン相場	8
英ポンド相場	5	台湾ドル相場	9
豪ドル相場	6	香港ドル相場	10
カナダドル相場	7	中国人民元相場	11
		シンガポールドル相場	12
		タイバーツ相場	13
		マレーシアリング相場	14
		インドネシアルピア相場	15
		フィリピンペソ相場	16
		インドルピー相場	17

* 見通しは各ディーラーのビューに基づきます。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

ドル円相場

予想レンジ: USD/JPY 151.00 ~ 157.00

国際為替部 為替営業第二チーム 松木 悠馬

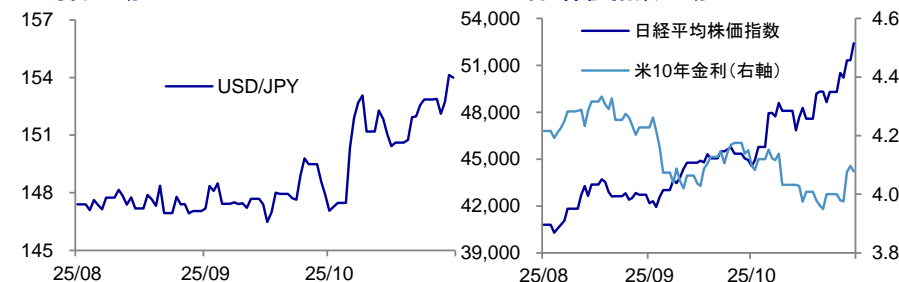
■ 今月の見通し

今月のドル/円は堅調推移を予想する。

本邦の金融政策においては10月会合にて政策金利据え置きを決定。植田総裁の会見では物価安定目標達成への確度が高まっているとしながらも、賃金動向を巡って来年の春闘含め材料が必要である認識を示しており、利上げの時期に関しては慎重な姿勢を崩していない。次回12月会合に向けては相応に時間があり、11月の時点で利上げを織り込むには時期尚早である為、金融政策の面で円売りがサポートされよう。米国の金融政策に関して10月FOMCではコンセンサス通り▲25bpの利下げを実施。ただし、米政府閉鎖が続く米国のハードデータが公表されていないこともあってか、パウエルFRB議長は12月利下げが決定事項ではないと発言。議会閉鎖の長引きに米指標が公表されない見通しのため、米国の金融政策を巡った思惑では動きにくい相場が継続される。とはいえ仮に米指標が公表され、想定ほど労働市場の軟化が確認されない場合は、市場によって7割程度織り込まれている12月利下げを剥がす動きにドルが買い戻されやすい地合いを予想。

10月末には日米首脳会談、米中首脳会談といった政治的なイベントを無難に通過。中国はレアアースの輸出規制に関して1年間停止、米国はフェンタニルに絡んだ対中関税引き下げなど、懸念されていた米中対立は後退している。これら材料は株式市場中心にリスク資産がサポートされやすい。11月は季節的にも株式市場の力強さが意識されやすく、これらの想定の下では円売り地合いは継続すると予想する。本邦政治動向を巡っては高市新政権が発足し、12月にかけて経済対策及び補正予算案閣議決定がなされると予想されている。政権の色が出てくる中で、財政拡大的な意向が強く反映されたものとなれば、円長期金利の上昇を伴って円売りが加速する可能性に留意したい。

■ 為替の動き



■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	前回
11/3	米ISM製造業景気指数	10月	49.2	49.1
11/5	米ADP雇用統計	10月	25K	-32.0K
11/5	米ISM非製造業景況指数	10月	51.0	50.0
11/19	米FOMC議事要旨	9月	-	-
11/21	本邦消費者物価指数	10月	-	2.9%
11/21	米コンポジットPMI（速報）	11月	-	54.8

ユーロ相場

予想レンジ: EUR/USD 1.1400 ~ 1.1800
EUR/JPY 175.00 ~ 181.00

国際為替部 為替営業第二チーム 原田 脩平

■ 今月の見通し

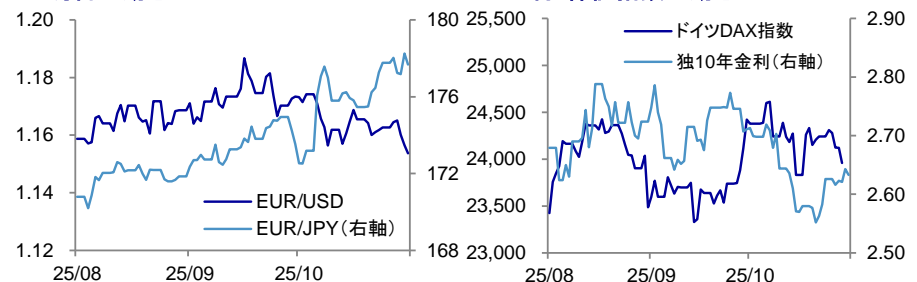
今月のユーロ相場は堅調な推移を予想する。欧州経済においてドイツの財政拡張的な政策への期待感に残るが、政策の実現に時間を要する事から、財政拡張の影響度合いは不透明である。ただし、直近のドイツ経済指標は堅調な結果となりドイツ経済は復調の兆しが見られる。一方でフランスは政治面での混乱が続く、経済指標も弱含んでいるため懸念材料となるが、欧州全体での経済指標は堅調であり、欧州経済は比較的底堅いと判断する。

ECBは10月政策理事会で全会一致となる3会合連続の政策金利据え置きを決定した。ラガルドECB総裁は記者会見で「金融政策の観点から見れば、我々は良好な状況にある」と発言するなど現在の金利水準に関して自信を示しており、+2%近辺で安定的に推移しているインフレ率が大幅に下落するなど余程の事が無い限り、次回以降のECB理事会においても政策金利は据え置かれるだろう。

他方で米国では、政府機関閉鎖の影響で利下げの判断材料となる米経済指標の発表が延期となる中、FRBは2会合連続での利下げを決定した。10月会合におけるパウエルFRB議長の発言を受けて市場における12月会合での追加利下げ織り込みは後退したが、今後の追加利下げを完全に停止する判断をしたわけではない。米政府機関閉鎖の先行きの見通しが立っていないため直近の米雇用統計が発表されず、米雇用環境の実態は不透明であるが、長期化する場合は米景気後退懸念の高まりによりユーロ買いドル売りの流れが続くだろう。

ユーロ/円については先月史上最高値を更新するなどドル/円と共に上昇を続けており、引き続き堅調な展開を想定。日銀は10月会合で政策金利を据え置き、植田日銀総裁の利上げへの慎重な姿勢から円買い材料が乏しく、ユーロ/円は高値を更新し続けるだろう。

■ 為替の動き



■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	前回
11/6	ユーロ圏小売売上高（前月比）	9月	-	0.1%
11/6	独鉱工業生産（季調済、前月比）	9月	-	-4.3%
11/11	独ZEW景気期待指数	11月	-	39.3
11/14	ユーロ圏GDP（改定値、季調済、前月比）	3Q	-	-
11/21	ユーロ圏PMI（製造業/非製造業、速報）	11月	-	-
11/24	独IFO企業景況感指数	11月	-	88.4

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ドル/円 見通しまとめ

ブル	6名	156.75 ～ 151.25	ベア	10名	155.50 ～ 149.00
----	----	-----------------------	----	-----	-----------------------

※ レンジは中心値

関	ベア	155.00 ～ 150.00	米国の12月利下げ見送りの可能性は高まったが、金利市場での利下げ織込みは未だ相応に高い状況。高市政権への期待で急騰したドル円であるが、株式市場の過熱感、日米当局からの円安牽制から、11月は上値を抑えられる調整局面を想定。	上遠野	ブル	158.00 ～ 155.50	10月末の日米金融政策は波乱なく終え、米国政府閉鎖によるデータ不足や次回12月会合までの距離感から織り込みは進みづらいただろう。株高や年内高市政権政策も意識されやすくリスクオン色の中、円買い要素に乏しい地合いが継続か。
山崎	ブル	156.50 ～ 151.50	ドル/円は上昇を予想。BOJの12月利上げ見通しも不透明な中で、米経済が不安をかかえながらも堅調推移を見込み。その中で上昇方向を予想。	小林	ブル	156.00 ～ 149.00	本邦高市政権の発足や日銀のハト派よりなスタンスを背景に、10月は円売り相場になった。スタンスの変更が見られない状況下、ドル/円は引き続き堅調推移を予想。一方で、一段の高値圏では日本当局による介入に警戒したい。
永野	ベア	155.00 ～ 150.00	12月のFOMCの利下げ期待低下に伴い上昇しているが、介入に対する警戒から上値は重く、ADP週次雇用データは弱い状況が続いている中、米利下げ期待の戻りからドル売り回帰を想定。	大熊	ベア	155.00 ～ 150.00	日米金融政策の方向性の違いや米中貿易摩擦の懸念後退を背景に底堅く推移しているが、日銀の利上げの可能性が残存していることや、米国の円安けん制などが重しとなり、下値を探る展開か。
加藤	ベア	155.00 ～ 147.00	平成バブル期と異なり、貿易赤字の現状ではガソリン減税や補助金などの対症療法ではなく円高誘導こそが抜本的な物価高対策であると思う。それを促す具体的な選択肢は先送りせず利上げに踏み切ることである。	伊藤	ベア	156.00 ～ 148.00	米国労働市場の冷え込みが一服している雰囲気があるものの、反転する見込みはあまり期待できないだろう。そうした中では、ドルを積極的に買う動きは出づらく、徐々に上値を切り下げていく展開を想定。
鳥場	ベア	157.00 ～ 147.00	足許の米中関税交渉の落ち着き、FOMC12月利下げ期待の剥落で上昇も、市場のキードライバーが金融政策の次の一手であることは不変。FOMC利下げ、BOJ利上げの方向を鑑みて、戻り売り相場と思料。	西	ベア	156.00 ～ 150.00	上値重い推移を予想。米政府閉鎖の解除が待たれるが、米経済の詳細なデータを確認しつつ再び12月利下げをフルに織込みにいく中でドルは売り戻されやすいのではないか。日銀については利上げが現実化し、円買い圧力も期待できるだろう。
山口	ベア	155.50 ～ 149.00	積極財政派の高市首相が誕生したこと、10月の日銀会合で次回利上げが明確に示されなかったことから、ドル/円は154円台まで急伸しているが、155円以上は財務省の介入警戒感も高まるものと考えている。	原田	ベア	156.00 ～ 150.00	米政府機関閉鎖が続いており、FRBの金融政策の判断に影響が出始めている。更に閉鎖が長期化する様であれば米景気の先行きの不透明感が増し、再び利下げの織り込みが進むだろう。
山口(朋)	ブル	156.00 ～ 149.00	ドル/円は高市政権への期待感からも高値圏での推移継続を予想。一方で、Fedによる追加利下げ、日銀による利上げ観測が高まるタイミングでは一時的に下値を探る展開にも警戒したい。	山田	ブル	157.00 ～ 152.50	日米両中銀は12月会合での政策変更に一定の距離を置く。米政府閉鎖は長期化、データ不足のなか市場予想のの過激な変化は想定しがたく、茲許の株高や高市政権のリフレ政策が意識されドル/円は上値を試す展開を想定。
松永	ベア	155.00 ～ 148.00	米国の次回会合での利下げ有無への思惑がマーケットの関心となろうが、11月時点で明確なメッセージがパウエルFRB議長はじめとした高官から出される可能性は低い。横ばい圏での動きとなっていこう。	松木	ブル	157.00 ～ 151.00	金融政策の面で12月会合まで時間的余裕があり、日米ともにデータ待ちで動きにくい時間となる。日米・米中首脳会談と政治的イベントを無難に通過しており、リスク資産の堅調推移に円売りがサポートされる時間帯となろう。

カスタマーディーラーの相場観、注目点(本編の内容とは必ずしも一致しません)

■ ユーロ/ドル 見通しまとめ 見通しまとめ

ブル	10名	1.1800 ～ 1.1400	ベア	6名	1.1725 ～ 1.1325
----	-----	-----------------------	----	----	-----------------------

※ レンジは中心値

関	ベア	1.1700 ～ 1.1300	ECBの金利据え置きは続くものの、FOMCでは12月の利下げ見送りの可能性も高まってきた状況。株式市場の過熱感も警戒され、フランスを含めたユーロ圏の政局不安も鑑み、ユーロ/ドルは上値重い推移を想定。	上遠野	ブル	1.1750 ～ 1.1450	域内賃金鈍化やユーロ高が続くことでディスインフレ圧力が表面化し、追加利下げ可能性が意識される展開に備え、ユーロは積極的に買われる状況ではないとみるが、基軸通貨性が揺らぐドルの逃避先としての位置づけは不変。
山崎	ベア	1.1600 ～ 1.1500	ユーロ/ドルは、ドル高の中で下方向を予想。米経済の底堅さが継続するものと考え、欧州圏の動向が不透明な中でいったん下方向に進むものと予想したい。	小林	ブル	1.1900 ～ 1.1450	10月開催の米FRBでは追加利下げを決定した一方、ECBは政策金利維持を決定。実需面におけるユーロ買いフローや、金融政策の方向性の違いを背景にユーロは引き続き底堅い展開を予想する。
永野	ブル	1.1900 ～ 1.1400	米利下げに対する思惑から上下あるものの、欧米金融政策の違いを背景にユーロは堅調に推移すると予想。ただし、引き続きフランス含めた政府債務ネタでの一時的な下落には注意。	大熊	ブル	1.1800 ～ 1.1450	仏政局の混迷はリスク要因として燦るものの、ECBは利下げ終了の見方が優勢となっている。欧米金利差の縮小やドル指数の下落により、底堅い推移を予想。
加藤	ベア	1.1750 ～ 1.1400	基本的にはドル安相場の裏側で堅調を維持してきたユーロであるが、フランス政局の混乱や、テクニカル面でも短期的には下押しの圧力が続きそうではある。	伊藤	ベア	1.1700 ～ 1.1300	追加利下げには現状ではまだ距離があるものの、欧州経済のファンダメンタルズは必ずしも強くないなか、主要国での政治不安、ウクライナ情勢の不透明感などを材料に引き続きユーロ売りが優勢な時間帯が長くなりそう。
鳥場	ブル	1.2000 ～ 1.1300	ECBは3会合連続での据え置き。ラガルドECB総裁も足許経済成長率・インフレ率に対する懸念は示さず。雇用環境の悪化を抱える米国、関税問題を抱えるアジア諸国対比で選好されやすいユーロの地合いは不変。	西	ブル	1.1800 ～ 1.1400	フランス政局の混乱は落ち着き、小康状態。ドルの信認が揺らぐ中、ドルからユーロへのグローバルなローテーションが通底しており、底堅い推移が続きやすいとみている。
山口	ベア	1.1750 ～ 1.1350	10月は米中関係緊迫の緩和からドル買い/ユーロ売りが進行した。ユーロ/ドルは50日や100日の移動平均線を下回り、テクニカル的にやや弱気ムードになっており、上値重い展開を予想する。	原田	ブル	1.1800 ～ 1.1400	欧州経済は堅調に推移しており、ECBは今後も政策金利を添え置く事が濃厚である。フランスの政治不安は懸念ではあるが、ドル売りの受け皿としてのドル買いが進み堅調な展開を想定する。
山口(朋)	ブル	1.1800 ～ 1.1400	ECBが金融政策維持維持する一方で、Fedは緩和スタンスを維持する。ドル売りが先行する局面では底堅い推移を予想。10月は景況感改善に加え、GDPも前期比プラスを維持していることもユーロ買いをサポート。	山田	ブル	1.1750 ～ 1.1500	域内インフレ率は安定推移かつ財政拡張期待から先行きの景況感も改善傾向であり、ECBも金利据え置きが織り込まれるもとでユーロは底堅い推移を予想。但し、仏政局は依然として混乱しており格下げ懸念が燦るなか上値は限定的か。
松永	ブル	1.1750 ～ 1.1400	第1四半期に見られた輸出増の反動減には引き続き警戒も、金融政策の方向性の違いや、欧州の軍事支出拡大などへの期待を背景とした底堅い動きは変わらないだろう。	松木	ベア	1.1800 ～ 1.1300	欧州圏のインフレは落ち着き、景況感は底堅く推移。ECBが様子見姿勢を継続していることはサポート材料。一方で、仮に米指標が公表され、それが強含む場合に利下げ織込みを剥がす動きにドルが買い戻されやすくユーロの上値は重そう。

英ポンド相場

予想レンジ: GBP/USD 1.2950 ~ 1.3450
GBP/JPY 199.00 ~ 206.00

欧州資金部 神田史彦

■ 先月の為替相場

先月の英ポンドは対ドルで下落。1日は、米9月ADP雇用統計が予想を下回る中で1.35台へ上昇するも続かず、主に1.34台の推移。翌週は仏政局と自民総裁選後の円安圧力を背景にドル堅調で、10日には1.33を割り込む。14日に英8月までの失業率が予想を上回る中1.32台で推移するも米中貿易摩擦を懸念してドル売りに切り返す。1.34台へ戻る中、17日は米地銀の信用不安のリスクオフ、22日に英9月消費者物価指数(CPI)が予想を下回り1.33台前半へ下落も週を通して小動き。28日には、英小売業協会が食品インフレの鈍化をレポートすると1.32台半ばまで下落。29日の米FOMC後に1.31台半ばへ下落した。

先月の英ポンドは対円で上昇。1日に198円台で始めると、週末の自民総裁選結果を受けた円安圧力で6日には201円台後半で始まり、ドル/円の上昇につれて8日には205円台まで買われる。10日には自公連立の瓦解で203円を割り込む。14日の英失業率後には201円台まで押されるも、英ポンドの反発に連れて16日には203円台へ反発。しかし17日のリスクオフで一時200円台へ急落したが20日には202円台を回復すると自民と維新の連立を好感し203円台へ。その後もみ合って、27日には204円台をつけるが、英ポンド下落につれて29日には200円台半ばへ下落。しかし、日銀会合とFOMCを通過し、30日はドル/円が上昇する動きにつれて203円レベルまで買い戻された。

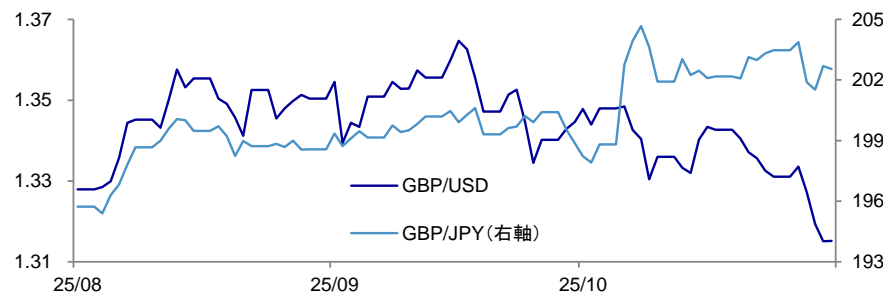
■ 今月の見通し

今月の英ポンドは上値重い推移の継続を予想。

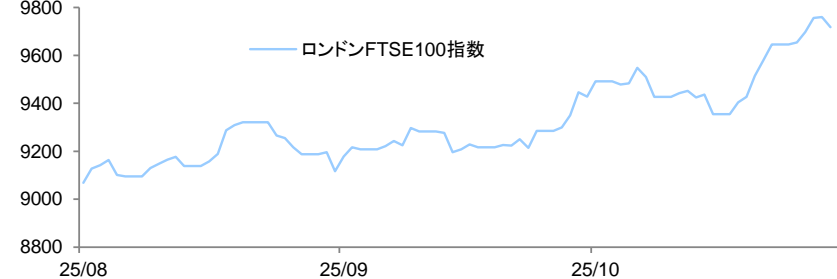
まず、6日に英中銀の政策決定が予定される。先月の指標、殊に英9月CPIの予想比下回る結果を受けて年内利下げ観測が再燃した恰好。もともとスワップ市場の11月利下げ織り込みは1割未満で、足許3割を上回ってきた程度。12月までの利下げ織り込みも5割未満ではあるが、ペイリー英中銀総裁が、労働市場に懸念を示しつつ「英経済がそのポテンシャルを下回っている」との発言を先月行っていることもあり、利下げ期待が高まっている現状だ。

そして、英国内最大の注目が、26日に発表される秋季予算。まさに昨年の秋季予算で英企業の社会保障費負担が増加し、企業が採用を絞っていることが労働市場の緩みの原因と広く言われており、実経済への影響が大きい。労働党政権公約で「働く人の税金はあげない」と政権を奪取をしたものの、約410億ポンドとも言われる財政の穴を埋めるために所得税の増税に着手するのではとの見立てだ。増税はもちろん消費者マインドを悪化させるが、先月予想を下回ったとはいえ引き続き高いインフレ率で英中銀の打てる策は少なく難しいかじ取りを迫られる。党公約の反故は支持率低下(といっても既に12%程度だが)を招くのは必至で、近頃、英国内ではポピュリズム政党のリフォームUKが支持率を高めていることもあり政局流動化のリスクも高まる。また、財政懸念が高まるケースにおいては、英国債金利の急上昇リスクも高く、英ポンド売りのリスクとして留意が必要。

■ 為替の動き



■ 株価指数の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/14	失業率	8月	4.7%	4.8%	4.7%
10/16	英GDP(月次)	8月	0.1%	0.1%	-0.1%
10/22	CPI(前年比)	9月	4.0%	3.8%	3.8%

■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
11/6	英中銀政策金利	-	-
11/11	失業率	9月	-
11/13	英GDP(速報)	3Q	-
11/19	CPI(前年比)	10月	-

豪ドル相場

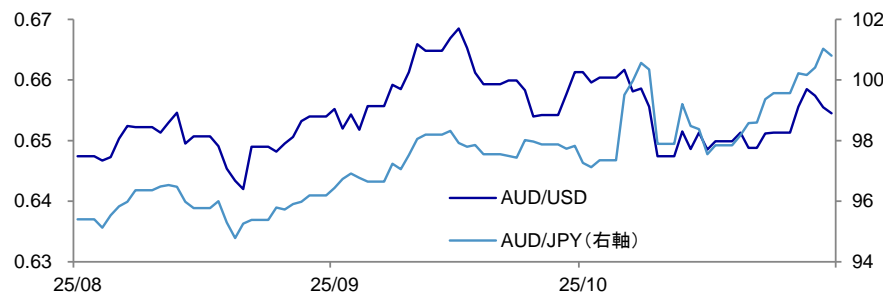
予想レンジ: AUD/USD 0.6470 ~ 0.6750
AUD/JPY 99.00 ~ 102.00

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 安藤 愛

■ 先月の為替相場

先月の豪ドルは0.66台から0.64台半ばまで下落後、再び0.66台乗せ第2週目、自民党総裁選で高市氏が勝利したことを受けて円売り圧力から米ドルが上昇。クロス円主導で豪ドルも一旦上昇するも、その後米ドルの上昇に押されて反落して0.66割れ。RBNZが大幅利下げに踏み切ったことでNZドルが大幅安となる流れに豪ドルもつれ安となったが、一服後は0.65台後半にて小動き。10日、米国が対中関税の大幅引上げを検討とのヘッドラインを受けて、リスクオフから0.64台後半まで大幅下落。第3週目、14日、中国が米国との貿易戦争を「最後まで戦う用意がある」と表明したことを受けて、月安値0.6440近辺まで値を下げた。その後、パウエルFRB議長が労働市場の見通しがFRBが数カ月以内にバランスシート縮小を停止する可能性があることも示唆したことで、豪ドルは買い戻され0.64台後半へ。16日、軟調な豪9月雇用統計が公表されると豪ドルは下落で反応するも、すぐに買い戻され相場の反応は限定的にとどまった。第4週目、米中貿易戦争を巡るヘッドラインを受けて一喜一憂する相場が継続するも、好調な米決算や米株価高値更新を背景に上昇へ転じた。24日、米9月CPIが予想を下振れたことで、0.65台乗せ。27日、米中合意への期待やブロックRBA総裁によるタカ派発言を受けて0.65台半ばまで上昇。29日、豪Q3CPIが上振れたことで次回利下げ観測が後退し、再び0.66台に乗せた。

■ 為替の動き



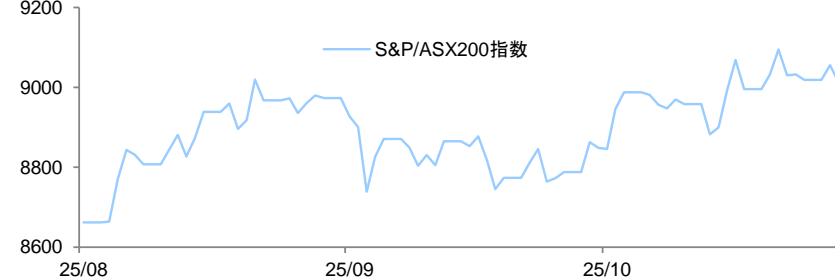
■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/2	貿易収支 (A\$ m)	8月	6,200	1,825	7,310
10/16	失業率(季調済)	9月	4.30%	4.50%	4.20%
10/16	雇用者数変化	9月	20.0	14.9	-5.4
10/29	消費者物価指数(前期比)	3Q	1.10%	1.30%	0.70%
10/29	消費者物価指数(前年比)	3Q	3.00%	3.20%	2.10%
10/29	月次CPI(前年比)	9月	3.10%	3.50%	3.00%
10/29	月次CPIトリム平均値(前年比)	9月	-	2.80%	2.60%

■ 今月の見通し

11月の豪ドルは底堅い値動きを予想。豪9月雇用統計は失業率が4年振りに4.5%まで悪化し、労働市場の減速を印象付ける内容となったが、その後発表された豪7~9月期CPIが電気料金の高騰を背景に予想を上振れたことで、次回RBA会合における利下げ織り込みが大きく剥落。CPI発表前までは11月の利下げを40%程度織り込んでいたものの、発表後の利下げ織り込みは5%程度まで後退している。一方、米国では米政府封鎖により雇用統計の発表が延期されているが、民間統計によれば雇用の減速が一段と鮮明になっている。遅れて発表された9月の物価統計では、懸念されたほどインフレが加速していなかったことから、年内の連続利下げへの期待が高まっている。かかる状況下、利下げ織り込みの差に加え、好調な米企業決算や米中協議への楽観等を背景にリスクセンチメントも回復しており、11月の豪ドルは更に上値を追う可能性があるとする。

■ 株価指数の動き



■ 今月の注目イベント

発表日	豪州準備銀行理事会	期間	予想
11/4	豪州準備銀行理事会	11月	-
11/6	貿易収支 A\$ m)	9月	-
11/13	失業率(季調済)	10月	-
11/13	雇用者数変化 ('000)	10月	-
11/19	賃金価格指数(前期比)	3Q	-
11/19	賃金価格指数(前年比)	3Q	-
11/26	月次CPI(前年比)	10月	-

カナダドル相場

予想レンジ: USD/CAD 1.3800 ~ 1.4100
CAD/JPY 105.50 ~ 111.30

米州マーケット部カナダ室 岩田 保子

■ 先月の為替相場

10月、USD/CADは1.39台での狭いレンジを抜け、1.4000を突破。それ以降は、米政府機関の一部閉鎖で米主要経済指標の発表が見送られるなか、USD/CADは上旬から下旬にかけて1.39台後半から1.4080のレンジ取引が続き、月末においては若干CADが買い戻された。

上旬から中旬にかけては、10/9に発表された予想を大幅に上回る9月カナダ雇用統計の結果を背景に、USD/CADは一時1.3976までCADが上昇。しかしその後は、特段の材料がないにもかかわらず、今年4月以降で初めてとなる1.4000をつけた。また中国政府によるレアアース輸出規制をめぐって米中間での通商問題が再燃すると、リスク回避のUSD買いが進行し、10/14には10月最高値となる1.4080をつけた。一方国内でも、カナダ中銀マックレム総裁が9月の雇用回復にもかかわらず、労働市場や25年下半期の経済成長に対して非常に慎重な見方を示したこと、加えてカナダ中銀の企業景況調査で、企業の投資及び雇用意欲が低調なままであることが判明。市場におけるカナダ中銀による10月利下げ織り込みが進み、CAD売り優勢の流れが継続、USD/CADは1.40台前半から半ばでの取引が続いた。下旬においては、米中首脳会談への期待が高まったほか、10/29の会合でカナダ中銀が緩和サイクル終了を示唆したことで、USD/CADは一時1.38台へとCADが急伸。その後、FRBが利下げを決定したものの、12月会合での利下げは既定路線ではないとのパウエル議長の発言で、再び1.39台半ばまでUSDが値を戻した(10/29現在)。

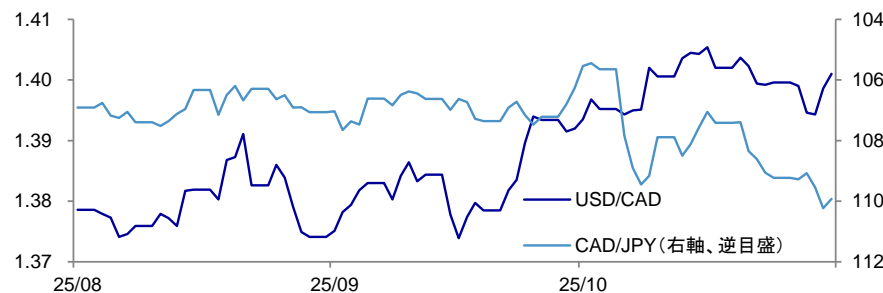
■ 今月の見通し

10/29、カナダ中銀は市場の予想通り、9月に続いて0.25%の利下げを決定。同時に、前回(1月)からは大幅に下方修正された経済見通しも発表した。そして、カナダ中銀の経済見通しに沿ってインフレと経済活動が推移すれば、現在の政策金利は適切な水準にあるとし、緩和サイクルが終了したことを示唆した。

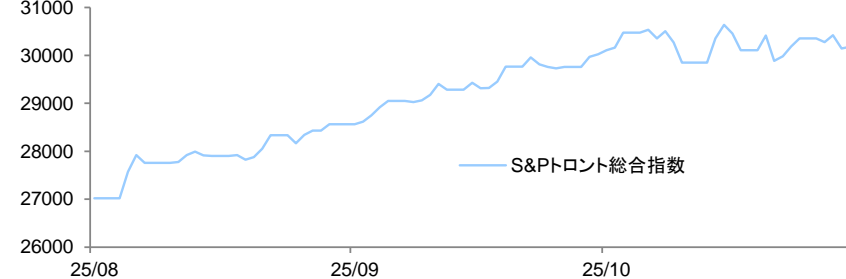
実際、10月には自動車大手が一部の生産をカナダから米国へ移管するというニュースがあったほか、下旬にはオンタリオ州による反関税キャンペーン広告を理由に、トランプ大統領はカナダとの通商協議を中止し、カナダの製品に対して10%の追加関税を課すと発表(10/29時点で詳細は不明)。鉄鋼・アルミ、エネルギー分野で進展があったと伝えられていたものの、米国との通商協議で具体的な成果は何も得られなかった。

11月のUSD/CADのメインシナリオは、FRBに比べてよりタカ派的なカナダ中銀の政策スタンスを背景に、CADが若干上昇すると予想している。ただし、上昇幅は米国との通商協議で進展がない限り、限定的だと考える。リスクとして1点挙げておきたいのは、トランプ大統領がIEEPA(国際緊急経済権限法)に基づいて発動した追加関税措置に対する最高裁の判決が年末までに決定され、違法であった場合、カナダ製品に対する関税見通しが大きく変化する可能性があること。加えて11/4に発表される連邦政府の予算案が市場の期待に応える内容であったならば、CADが一時的に急上昇する可能性も考慮に入れておく必要がある。

■ 為替の動き



■ 株価指数の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/1	S&Pグローバル・カナダ製造業PMI	9月	-	48.3	48.3
10/10	ネット雇用変化	8月	5.0k	60.4k	-65.5k
10/10	失業率	8月	7.2%	7.1%	7.1%
10/21	CPI(前年比)	8月	2.2%	2.4%	1.9%
10/29	カナダ中銀金融政策決定会合		2.25%	2.25%	2.50%
10/31	GDP(前月比)	8月	0.0%	-0.3%	0.2%

■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
11/3	S&Pグローバル・カナダ製造業PMI	10月	-
11/7	ネット雇用変化	10月	-
11/7	失業率	10月	-
10/17	CPI(前年比)	8月	-
11/21	小売売上高(前月比)	9月	-
11/28	第3四半期GDP(前期比年率)	3Q	-

韓国ウォン相場

予想レンジ: USD/KRW 1385 ~ 1435
KRW/JPY 10.46 ~ 11.19 (注)100韓国ウォンあたりの対円レート

東アジア資金部ソウル資金室 山内 脩平

■ 先月の為替相場

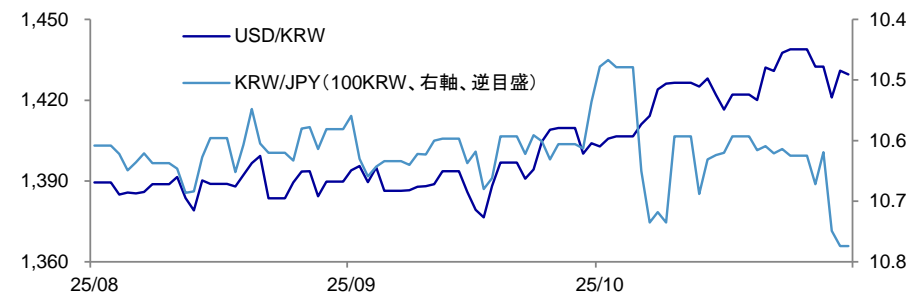
10月のドル/ウォンは上昇。

月初ドルウォンは1404.2でオープン。韓米両政府が為替に関する共同声明を発表し、為替介入は過度の変動や無秩序な動きに対処するためのものに留保されるべきとの認識で一致。一部で期待された通貨スワップ協定は言及が無く、ウォン安が進行する場面も見られた。大型連休明け10日には、韓米貿易交渉の不透明感が高まっていることから1,420台に上昇した。13日週には中国がレアアース輸出規制を発表し、米国が報復関税を課すことを発表するなど米中関係の一段の悪化が懸念され、1,430台までウォン安が進行。韓国当局からは口先介入が行われるも、14日に中国が韓国造船大手の米子会社への制裁を発表すると再びウォンは弱含んだ。その後月央にかけて米地銀の信用不安による米金利の低下や韓米貿易交渉の妥結期待により、一時1,410ウォン台半ばまでドル/ウォンは反落する場面も。

しかし、21日週に日本で高市新政権が誕生し、円安が進行するとウォンも連れ安推移に。23日のBOK会合では大方の予想通り政策金利の据え置きが決定され、BOKは引き続き緩和的な政策を検討することが伝わった。また、対米投資に関連してウォンの需給悪化が一段と懸念され、一時1,441.5の高値をつけた。

月末にかけてはFRBの利下げ期待によりウォン安が一服。韓米首脳会談後、対米投資について年間200億ドルを上限に直接投資を行う事で合意したとの発表があり、不透明感払拭から、その後一段と下落し、1,426.5付近で推移。(30日15:30現在)

■ 為替の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/1	貿易収支	9月	\$8000M	\$9558M	\$6514M
10/1	輸出(前年比)	9月	7.8%	12.7%	1.3%
10/1	輸入(前年比)	9月	5.6%	8.2%	-4.0%
10/2	CPI(前年比)	9月	2.0%	2.1%	1.7%
10/23	BOK政策金利	10月	2.50%	2.50%	2.50%
10/28	消費者心理指数	9月	-	109.8	110.1

■ 今月の見通し

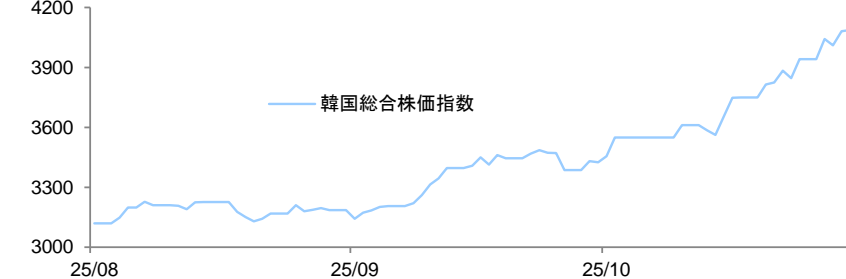
11月のドル/ウォンは上値重い推移か。

懸案であった韓米貿易交渉では、直接投資2,000億ドルについて、年上限200億ドルとすることで合意。為替変動についても安全措置を用意したことが伝わり、目先の不透明感は解消に向かっている。加えて米中貿易協議によって、両者の関係改善に向けた動きが見られると、一段とウォンが買い戻される局面も想定されよう。また、為替相場の安定とともに、株式市場が堅調推移を保つと、外国人投資家のインフローがウォン買いをサポートしよう。

また、10月BOK会合では低成長にも関わらず政策金利の据え置きを決定。ソウルをはじめ都市部の不動産価格は上昇傾向を維持しており、家計債務の増加が懸念される。政府は住宅ローン規制の強化を行い、価格上昇の抑制に取り組んでいるものの、現状効果は限定的。BOKメンバーの多くは近く利下げを想定しているものの、慎重な政策運営を継続している。

上記より、政治的なイベントを通過し、幾分不確実性が解消されたことを受けて11月のドル/ウォンは下落を試す展開を想定する。

■ 株価指数の動き



■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
11/1	貿易収支	10月	\$2400M
11/1	輸出(前年比)	10月	-0.6%
11/1	輸入(前年比)	10月	-1.8%
11/4	CPI(前年比)	10月	2.1%
11/25	消費者心理指数	11月	2.50%
11/28	鉱工業生産	10月	-

台湾ドル相場

予想レンジ: USD/TWD 29.80 ~ 31.50
TWD/JPY 4.7 ~ 5.2

東アジア資金部台北室 ヤン チェンロン

■ 先月の為替相場

10月のドル/台湾ドルはドルがじり高の展開。

月初は30.50近辺でオープン。米長期金利の上昇や米経済指標の底堅さを受けてドル買いが優勢となり、一時30.80近辺まで上昇。米インフレ指標の鈍化で一時的にドル高は一服したものの、全体としては台湾ドル安傾向が続いた。

月央には、台湾9月CPIが前年比+1.25%と8月から鈍化し、半導体輸出の好調が台湾経済を下支えした一方、市場参加者は国内消費の軟調さから2025年のCPI見通しを下方修正。また、台湾中銀は9月の外貨準備が6,029億ドルと初めて6,000億ドルを突破したと発表。外国人の台湾株買いや為替介入が背景で、AI関連投資期待も根強い。台米通商交渉は進展が見られないものの、当局は台湾ドルの急激な上昇を抑制する姿勢を示している。

月末には米FOMCが開催され、FRBは予想通り政策金利を25bp引き下げ、バランスシート縮小を12月1日で停止と決定。ただし、パウエル議長は「12月利下げは当然の結論には程遠い」と慎重な姿勢を示し、全体的にややタカ派的なコミュニケーションとなり、市場の12月利下げ期待も後退し、米債利回りはベアフラット化、ドル高が進行。台湾ドルは再び30.70台まで下落し、同レベルでクローズ。

■ 今月の見通し

11月のドル/台湾ドルは底堅く推移する予想。

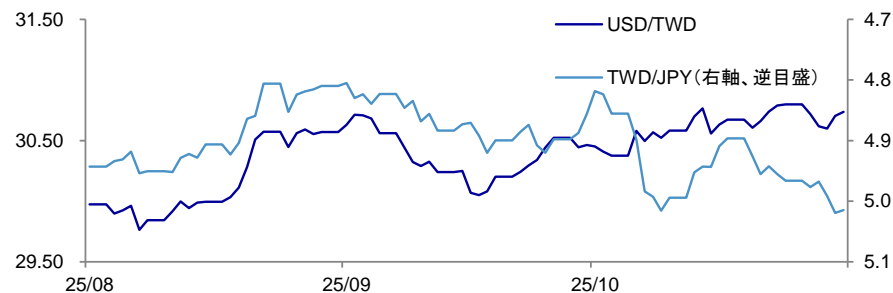
11月は米金融政策や米金利動向に加え、米株・台湾株の動きにも注目が集まる展開となりそう。10月末のFOMCではFRBが25bpの利下げとQT停止を決定したものの、パウエル議長が12月利下げを否定的に捉える発言をしたことで、市場の利下げ期待が後退し、米金利・ドルは底堅く推移している。

一方、台湾ではAI関連を中心にハイテク輸出や設備投資が堅調で、経済のファンダメンタルズは良好。外貨準備も過去最高水準を維持しており、米国の半導体規制強化も現時点で大きな影響は限定的とみられる。CPIは鈍化傾向にあり、台湾中銀は金融政策の据え置きを継続している。

ただし、米株や台湾株の動向には特に注意が必要。もしグローバルにリスクオフとなれば、資金がドルに逃避し、ドル高・台湾ドル安が進むリスクがある。加えて、台湾当局による為替介入やドル高抑制姿勢も引き続き意識される。

このため、11月のドル/台湾ドルは米金融政策で底堅く推移する一方、株式市場動向、半導体関連の外部要因を睨みつつ、上下に振れやすくなる可能性も。

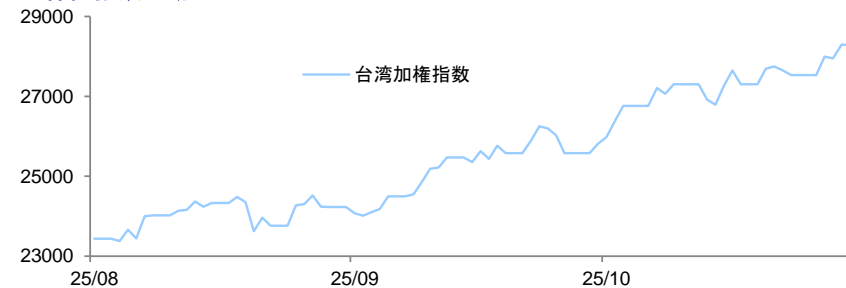
■ 為替の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/1	製造業PMI指数	9月	-	46.8	47.4
10/8	CPI(前年比)	9月	1.64%	1.25%	1.60%
10/9	輸出(前年比)	9月	38.8%	33.8%	34.1%
10/21	輸出受注(前年比)	9月	18.70%	30.50%	19.50%
10/23	鉱工業生産(前年比)	9月	14.50%	15.48%	14.41%
10/24	失業率	9月	3.40%	3.35%	3.35%

■ 株価指数の動き



■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
11/3	製造業PMI指数	10月	-
11/6	CPI(前年比)	10月	-
11/7	輸出(前年比)	10月	-
11/20	輸出受注(前年比)	10月	-
11/25	鉱工業生産(前年比)	10月	-
11/28	GDP成長率(前年比)	3Q	-

香港ドル相場

予想レンジ: USD/HKD 7.7500 ~ 7.8000
HKD/JPY 19.20 ~ 20.20

東アジア資金部 香港室 鈴木 智大

■ 先月の為替相場

10月の米ドル/香港ドル相場は値を下げる展開。7.78台前半でオープン後、序盤は日本の自民党総裁選で高市氏が勝利したことを受けて水準を上げた円金利につられ、米金利が上昇。ドル円の上昇もあり米ドル買いが強まる中、7.78台半ばを伺うも、その後は反落し、7.77ちょうど近辺まで値を下げた。

6月以降断続的に行われていた香港金融管理局(HKMA)によるUSD売りHKD買い介入の影響が依然として効いてか、アグリゲートバランスが減少し低位で推移する中、香港ドル金利に上昇圧力がかかり、香港ドル買いが優勢の展開。経済指標においても、香港8月小売売上高が前年比+3.8%と市場予想を大きく上回る結果となったほか、香港9月輸出(前年比)も前回対比堅調な伸びを見せるなど、米国の相互関税の実体経済への顕著な影響が見られなかった点も香港ドル買いをサポートした。

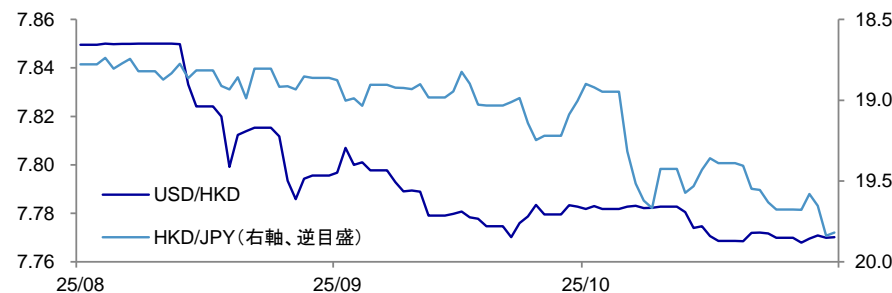
一方米国は、米政府機関の閉鎖により今後に向けて不透明感が残る中、中国との貿易対立に対する懸念や、24日(金)に発表された米9月CPIが予想を下回るなど、金利が緩やかに低下する展開にドル売りが優勢。市場予想通り▲25bpの利下げが実施された10月FOMC会合後のパウエルFRB議長の会見で、次回会合での利下げについて慎重な姿勢が示されたものの大勢は変わらず、上値は重く推移した。

■ 今月の見通し

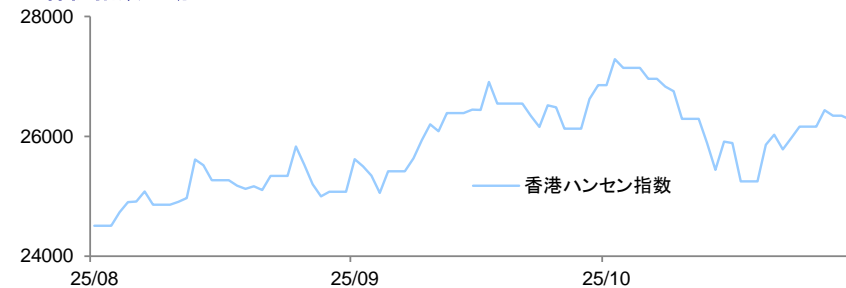
11月の米ドル/香港ドル相場は、ベッグ制レンジの下半分である7.75~7.80での推移を予想する。米政府機関の閉鎖が継続し、不透明感が残存する中、公表が遅延していた米9月CPIの結果はインフレ再燃懸念を一旦は和らげる結果となった上、29日(水)のFOMCでも市場予想通り▲25bpの利下げが決定。パウエルFRB議長は会見内で、12月会合での更なる緩和に慎重な姿勢を示したものの、次回会合での利下げ織り込みは依然6割程度残存しており、当面の利下げの流れを覆すほどの材料とはなっておらず、米金利は緩やかな低下基調が続くと想定される。

一方、香港国内は、アグリゲートバランスの低位推移が続いており、香港ドル金利には引き続き上昇圧力がかかりやすい環境。両国の単純な金利差の縮小を背景に香港ドルが選好されやすい地合いと考えられる上、経済的な結びつきの強い中国が、30日(木)に実施した米国との首脳会談で、レアアースの輸出規制の停止や一部関税の緩和などで合意したとの報道も香港ドルには好材料。ここしばらく緊張感が増していた両国の貿易交渉の一旦の落ち着いたことは香港経済にとってポジティブであり、香港ドル買いのサポートになると考えている。ただ10月と同様の下押し圧力が継続し、7.75に近づいた場合の当局の動きには注意をしておきたいところだ。

■ 為替の動き



■ 株価指数の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/2	小売売上高(価額、前年比)	8月	-2.0%	3.8%	1.8%
10/6	S&P Global Hong Kong PMI	9月	-	50.4	50.7
10/8	外貨準備高	9月	-	\$419.2b	\$421.6b
10/20	失業率(季調済)	9月	3.7%	3.9%	3.7%
10/23	CPIコンポジット(前年比)	9月	1.1%	1.1%	1.1%
10/27	輸出(前年比)	9月	15.4%	16.1%	14.5%
10/27	輸入(前年比)	9月	13.5%	13.6%	11.5%

■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
11/5	S&P Global Hong Kong PMI	10月	-
11/7	外貨準備高	10月	-
11/14	GDP(前年比)	3Q	-
11/18	失業率(季調済)	10月	-
11/20	CPIコンポジット(前年比)	10月	-
11/25	輸出(前年比)	10月	-
11/25	輸入(前年比)	10月	-

中国人民元相場

予想レンジ: USD/CNY 7.0500 ~ 7.1500
CNY/JPY 20.80 ~ 22.50

中国為替資金部 末吉 小絵

■ 先月の為替相場

10月のドル人民元(USDCNY)は下落。

国慶節明けの9日、USDCNYは7.1300でオープン。一時7.13台半ばまで上昇も、買い一巡後は7.12台前半まで反落。9日に中国がレアアース等の輸出規制を強化する方針を発表、10日にはトランプ大統領が中国に対し100%の追加関税を課すと発表する等、中米関係を巡るリスクが高まったことから10日海外時間には7.13台後半まで上昇してクローズ。

13日、7.1269でオープン。寄り付き直後こそ7.12台後半まで下落したものの、その後は底堅く推移し7.13台を回復、14日には7.14台前半まで上昇。同日海外時間にパウエル議長のハト派的な発言や「高市トレード」の巻き戻しに伴う円高ドル安、16日海外時間に米地銀不正融資が報じられたこと等を受けて週後半にかけてはUSDCNYも上値重く推移する展開。週末17日は7.12台後半でクローズ。

20日、7.1250でオープン。同日発表された中国第3四半期GDP、国内主要経済指標は強弱まちまちの結果。発表直後こそ元高で反応したものの、週間を通じ7.12を挟んで小幅なレンジ推移に留まった。

27日、7.1083でオープン。週末ベッセント米財務長官が対中100%追加関税について「事実上撤回された」とコメントしたことや、PBOC仲値が年初来元高水準に設定されたことを受けて、元高方向にギャップオープン。28日には7.10を下回り、29日は7.09台後半でクローズ。

■ 今月の見通し

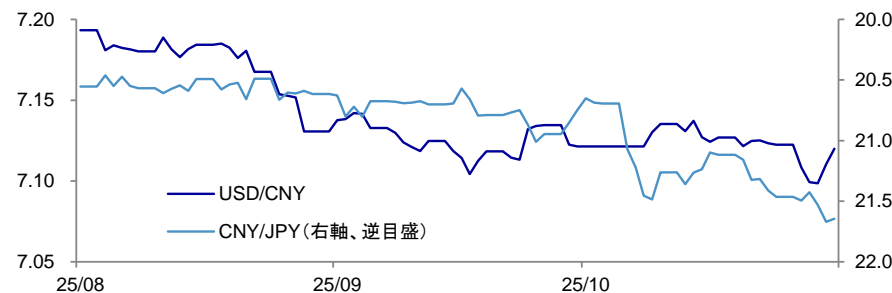
11月のUSDCNYは底堅い展開を予想。

30日の米中首脳会談を経て、米国は対中のフェンタニル関税を10%に引き下げ、中国は対米の24%上乗せ関税の停止を1年間延長、レアアースに関する輸出規制の1年間停止を発表する等、関係の改善に向けた動きが見られた。問題の根本的解決には至っていないことから今後も協議が継続していくとみられるものの、短期的には急激な元安リスクは通減したと考えられる。

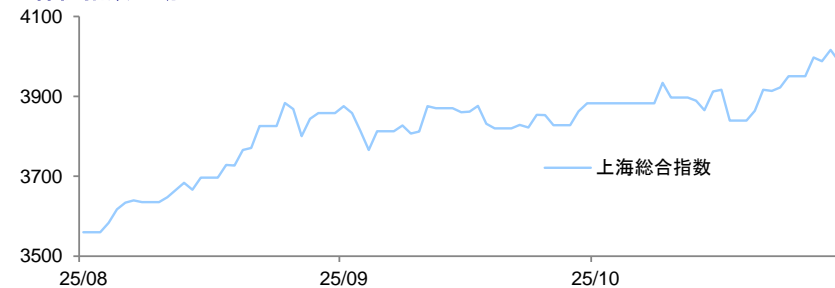
また、中国国内では10月20日から24日の日程で4中全会が開催された。引き続き「質の高い発展」や「自立自強」を目指す方針が明記されており、内需拡大のスタンスも継続されるとみられる。今後も経済データを確認しながら必要に応じて金融・経済政策が実施されると考える。

他方、米国サイドでは29日のFOMCで▲25bpの利下げを実施したものの、パウエル議長の「12月の利下げ、当然の結論と呼ぶにはほど遠い」等の発言を受けて12月会合における利下げ織り込みが剥落しドル高が進んだ。今後も経済データやFed高官の発言から利下げの可能性を探る展開となるものの、利下げを織り込む動きは以前よりは鈍くなると考えられることから、USDCNYは調整から反発する展開をメインシナリオとしたい。

■ 為替の動き



■ 株価指数の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
9/30	製造業PMI	9月	49.6	49.8	49.4
10/13	貿易収支	9月	\$98.05b	\$90.45b	\$102.33b
10/20	GDP(前年比)	9月	4.7%	4.8%	5.2%
10/20	小売売上高(前年比)	9月	3.0%	3.0%	3.4%
10/20	鉱工業生産(前年比)	9月	5.0%	6.5%	5.2%
10/20	都市部固定資産投資(年初来前年比)	9月	0.10%	-0.50%	0.50%

■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
10/31	製造業PMI	10月	49.6
11/7	貿易収支	10月	-
11/9	CPI(前年比)	10月	-
11/14	小売売上高(前年比)	10月	-
11/14	鉱工業生産(前年比)	10月	-
11/14	都市部固定資産投資(年初来前年比)	10月	-

シンガポールドル相場

予想レンジ: **USD/SGD 1.2850 ~ 1.3100**
SGD/JPY 115.00 ~ 120.00

アジア・オセアニア資金部 松本 彩花

■ 先月の為替相場

10月のUSD/SGDはSGD安方向へ緩やかに水準を切り上げる展開に。1日、USD/SGDは1.29ちょうど付近で取引開始。米政府機関閉鎖に伴う経済指標の公表延期や、10月は東南アジア各国で中銀会合を複数控えていたことも相俟って、先行きに対する警戒感が高まって、対ドルでアジア通貨が軟調な値動きとなり、SGDも弱含む展開に。USD/SGDは9日に節目である1.30を突破する格好となった。

14日、シンガポールにおいてMAS会合が開催された。MASは前回7月会合に引き続き2会合連続で金融政策の現状維持を決定。また、同日公表されたシンガポールの第3QGDP(速報値)は前年同期比+2.9%となり、前回(同:+4.5%)対比は低下も市場予想(同:+2.0%)は上回る結果となった。MASの決定を受け、SGD買いが強まりUSD/SGDは下落する場面も見られたが、一時的な反応に留まった。

その後、月末にかけては米地銀の信用懸念や米中对立、9月FOMC等のヘッドラインにぶらされ、一喜一憂。23日にはシンガポール9月CPIが公表され、前年同月比+0.7%と10か月ぶりに伸びが加速するも、反応は限定的。一定の方向感が出づらな展開となり、月末のUSD/SGDは1.29台後半を中心とした値動きとなった。

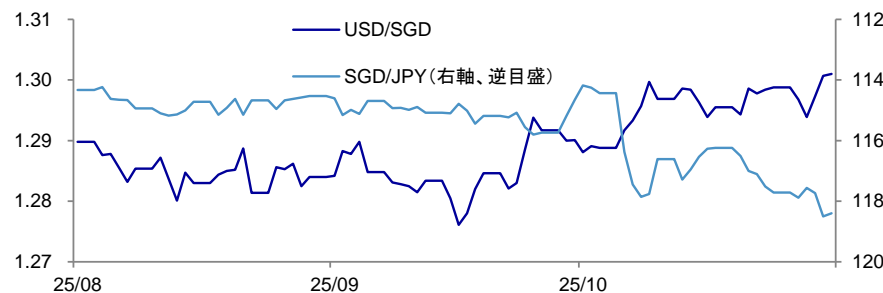
■ 今月の見通し

今月のUSD/SGD相場は上値重い展開を予想。

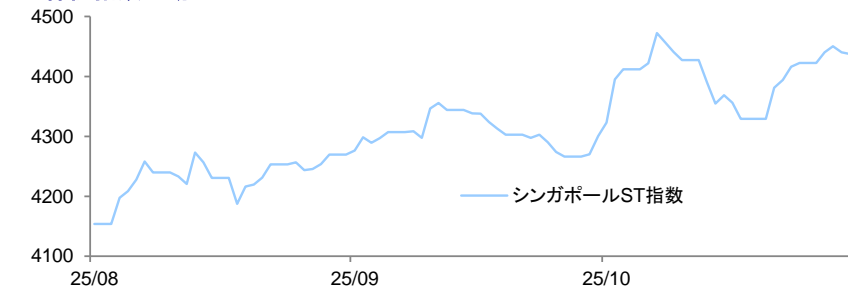
前月は、FOMCが開催され、市場予想通り25bpの利下げやBS縮小の終了が決定された。決定事項については事前に織り込み済みの内容であったものの、パウエル議長から「12月会合での利下げは確実ではない」との発言があったこともあり、12月会合での利下げ有無を巡り、米経済指標の結果等にぶらされる展開には留意が必要か。米地銀の信用懸念や米中对立については一旦材料として消化していると考えられるものの、追加のヘッドラインがあれば引き続き注視したい。

一方で、シンガポールにおいては、第3QGDP(速報値)は前年同期比+2.9%と予想対比堅調な結果が示され、国内物価に関しても9月CPIに関しては前対比やや加速する格好となっているものの低位安定している状況。次回会合は2026年1月となるが、MASからは今後も経済指標等の動向に注視しながら政策運営を行う方針との見解が示され、追加での緩和に対する明言は特段無かったため、今後公表される経済指標を見極めていく必要があるだろう。但し、盤石なシンガポールの経済基盤や国内物価の安定感を鑑みると、今月は対USDでSGDが堅調な値動きとなると予想したい。

■ 為替の動き



■ 株価指数の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/3	小売売上高(前年比)	8月	4.8%	5.2%	4.6%
10/14	MAS金融政策決定会合		-	現状維持	-
10/14	GDP(速報)	3Q	2.0%	2.9%	4.5%
10/17	非石油輸出(前年比)	9月	-2.1%	6.9%	-11.5%
10/23	CPI(前年比)	9月	0.6%	0.7%	0.5%

■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
11/5	小売売上高(前年比)	9月	-
11/17	非石油輸出(前年比)	10月	-
11/24	CPI(前年比)	10月	-
11/21-25	GDP(確報)	3Q	-

タイバツ相場

予想レンジ: USD/THB 31.50 ~ 32.90
THB/JPY 4.50 ~ 4.90

アジア・オセアニア資金部バンコック室 岡崎 玲奈

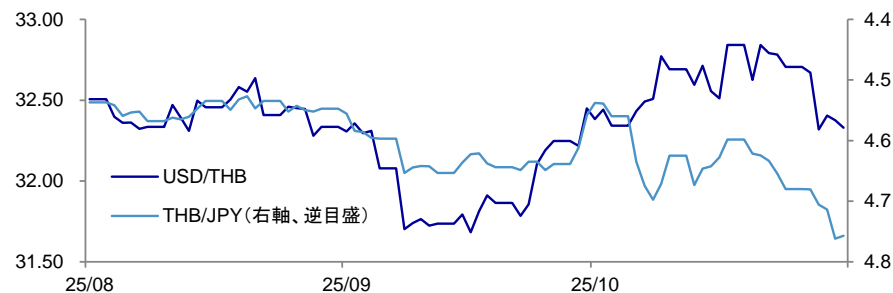
■ 先月の為替相場

10月のドルバツ相場は、金価格の下落に伴い上昇するも、月末には月初の水準へ戻す「行ってこい」の展開となった。月初は米政府機関閉鎖発表を受けリスク回避からドル買いが優勢となる場面も見られるも、32.30バツ台を中心に狭いレンジで推移。6日以降は8日にタイ中銀の金融政策委員会（MPC）を控え32.40～50近辺で膠着。注目のMPCでは予想外の金利据え置きとなり発表直後はバツ高に振れたものの、声明のハト派的なトーンが意識され反落し、結局水準は変わらず。9日には金価格の下落を背景にバツ売りが加速しドルバツは32.80バツ台まで上昇するも、米国の対中追加関税100%等の報道に反応し、32.60バツ台まで戻した。その後14日には金価格の下落を受けバツ売りとなり再び32.80バツ台を付けた。15日にはパウエルFRB議長のハト派的な発言を受け米利下げ観測が高まり32.40バツ台前半までドル売り。17日には米中貿易摩擦の先行き不透明感や米地銀の信用懸念からドルが売られる場面もあったが、その後は金価格の上下に連れる格好で32.40バツ台後半から32.90バツ手前での荒い値動きが継続。24日に市場予想を下回る米9月CPIの結果が発表されるとドル安で反応、翌週も米金利の低下につれ32.30バツ近辺まで下落。29日のFOMCでは、事前予想通り0.25%の利下げが決定された一方で、パウエル議長の会見で12月の利下げについて慎重な姿勢を示されたことを受けドル高で反応し、その後ドルバツは32.50近辺まで反発した。

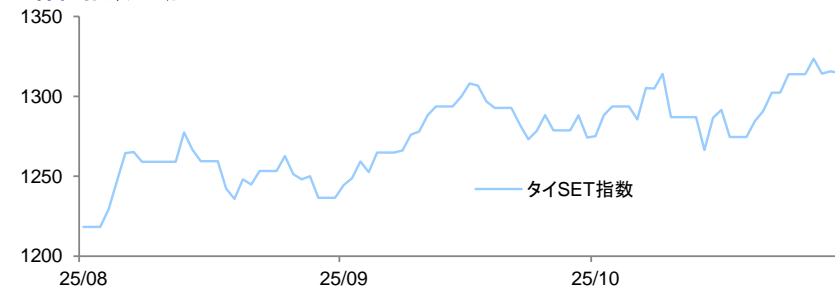
■ 今月の見通し

11月のドルバツは、引き続き米国の金融政策動向に主導される展開を想定するが、次回12月のFOMCに向け利下げパスが明確になるにつれたドル安と、足元下落している金価格の反発によるバツ高再燃に留意したい。10月29日のFOMC会合では利下げが決定され、パウエル議長の会見ではインフレと雇用のリスクのバランスについて、引き続き雇用のリスクを懸念している印象であった。足元継続中の米国政府閉鎖であるが、前回2018年の閉鎖期間35日に迫ろうとしている。その期間のGDP損失は110億ドルだったとの試算があり米経済活動への悪影響は今回も必至である。11月中に政府閉鎖以降の民間発表のものも含めたデータが公表された場合、法的にストップがかかっているものの政府閉鎖によりすでに解雇通告を受けている職員のみならず、間接的な雇用への影響も少なからず顕在化することが見込まれ、ドル安を加速させる要因となろう。バツ特有の要因に目を向けると、ドルバツの水準と相関が高いとされる金価格は10月後半に最高値を付けて以降下落しているが、このタイミングでの各国中銀の買い増しの可能性についても報じられており、反発に伴うバツ高の再燃にも注意が必要だ。また、9月のタイ通関ベース貿易収支が赤字の予想に反し大幅に黒字であったが、これにより上期の関税発動を見越した前倒し輸出の反動減が見込まれた下期も経常収支の黒字が続く可能性が示唆されており、バツ高圧力が継続している。11月は米国発のドル安とバツ高再燃によるドルバツ下落に警戒したい。

■ 為替の動き



■ 株価指数の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/6	CPI YoY	9月	-0.60%	-0.72%	-0.79%
10/6	CPIコアYoY	9月	0.75%	0.65%	0.81%
10/8	タイ中央銀行指標金利	9月	1.25%	1.50%	1.50%
10/18-24	自動車販売台数	9月	-	48,350	47,622
10/18-26	輸出(通関ベース)YoY	9月	7.2%	19.0%	5.8%
10/18-26	輸入(通関ベース)YoY	9月	10.4%	17.2%	15.8%

■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
11/5	CPI YoY	10月	-
11/5	CPIコアYoY	10月	-
11/18-24	自動車販売台数	10月	-
11/18-26	輸出(通関ベース)YoY	10月	-
11/18-26	輸入(通関ベース)YoY	10月	-
11/28	貿易収支	10月	-

マレーシアリング相場

予想レンジ: **USD/MYR 4.1650 ~ 4.2450**
MYR/JPY 35.50 ~ 37.30

マレーシアみずほ銀行 鈴木 一勲

■ 先月の為替相場

10月のリング相場は月後半までレンジ推移となった後、月末週にドル安が強まる展開。1日から米政府機関が閉鎖され、米雇用統計等の重要指標の発表が延期されると、4.20台で取引を始めた後に4.21台へ上昇して方向感無く推移。米債への売り圧力が高まった結果、ドルがしっかりと推移し、中旬前には4.22台へ上昇した。10日に発表された2026年馬政府予算案は、引き続き財政健全化と国家競争力向上に的を絞った内容。アンワル政権の任期が折り返しを過ぎ、成果が必要なフェーズのためか目新しい内容は無く、海外勢の反応は乏しかった。中旬は米の対中関税引き上げ検討(レアアース輸出規制報復分)によって米中の対立激化懸念によるリング売りが優勢で、4.23台へ上昇。但し、パウエルFRB議長が米労働市場に対する懸念を示した他、米地銀を巡る不正融資の報道が米金利低下につながり、上値は限定された。

下旬、22日の馬9月CPIは予想を上回る1.5%となるも反応薄く、4.22台を彷徨う展開が続く。しかし、米9月CPIが予想に届かず米金利が大きく低下すると、リングは足早にFOMC前に4.20を割り込んだ。FOMCでは予想通り25bp引き下げられたが、連続した利下げには否定的と捉えられるパウエル議長発言に米金利が大きく上昇。ただ、翌30日の米中首脳会談にて両首脳から双方に対する措置の譲歩が確認され、和やかなムードで終了。ドル/リングの上値を押さえ、30日の終値は4.19台を維持した。

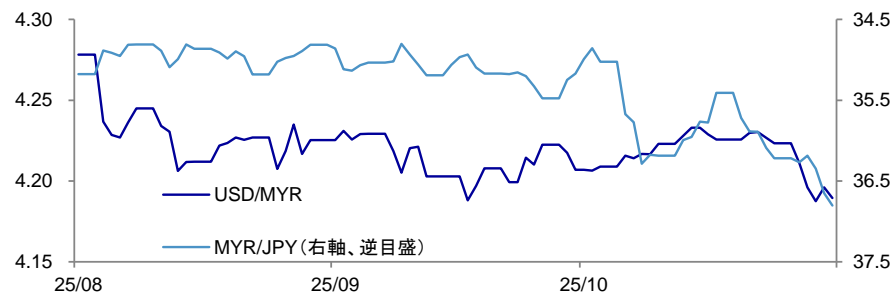
■ 今月の見通し

11月のリング相場は対ドルで堅調な推移を予想。馬は3QのGDP速報値や、9月貿易統計にて引き続き内需が主導する経済成長と関税政策の影響を感じさせない様な貿易の伸びを示した。馬政府は待望していた米政府との関税の調印もASEANサミットのタイミングで完了しており、馬に対するセンチメントは世界的に不確実性が意識される中でも悪くないと考えている。

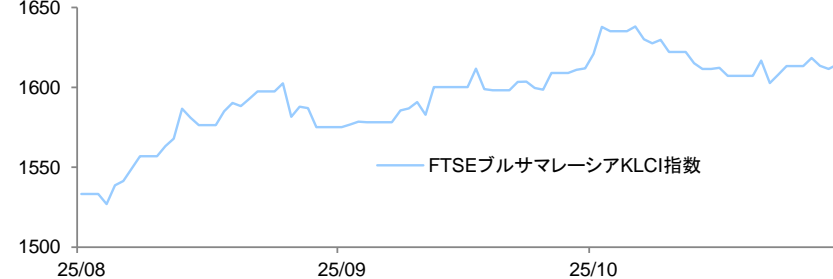
また、30日の米中首脳会談は互いに核心的な難題には触れず、融和ムードの演出が成功する結果となったことも、米中間の対立懸念後退と市場センチメントを改善させた。こうした要因は他のASEAN主要国にとっても等しくポジティブに働くと考えられるが、馬は相対的に政治と経済も安定しているという近年の評価があるため、海外勢の食指が伸びやすい対象になると考えられる。但し、引き続き些細なきっかけで米中間の対立が懸念される事態が想定されるほか、本稿執筆時点で歴代2位の長さにある米政府機関閉鎖の影響も無視できない。不透明感がFRBの金融政策に及ぼす影響はアジア各国にも波及するため、少ないデータに基づき相場の変動が大きくなるリスクに注意が必要だろう。

月初早々にある馬中銀のMPCでも国内経済に対する前向きな評価が出ると考えられ、不安要素を孕んでいるものの、11月のドルリングは内外のセンチメントが急速に悪化する事態にならない限り上値の重い展開を予想。

■ 為替の動き



■ 株価指数の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/1	S&P Global Malaysia PMI	Sep	-	49.8	49.9
10/10	Industrial Production YoY	Aug	3.40%	4.90%	4.20%
10/17	GDP YoY	3Q速報	4.2%	5.2%	4.4%
10/17	Exports YoY	Sep	3.1%	12.2%	1.7%
10/17	Imports YoY	Sep	1.4%	7.3%	-5.9%
10/17	Trade Balance MYR	Sep	16.8B	19.86B	15.85B
10/22	CPI YoY	Sep	1.4%	1.5%	1.3%

■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
11/3	S&P Global Malaysia PMI	Oct	-
11/6	BNM Overnight Policy Rate	-	-
11/7	Industrial Production YoY	Sep	-
11/14	GDP YoY	3Q確報	-
11/19	Exports YoY	Oct	-
11/19	Imports YoY	Oct	-
11/19	Trade Balance MYR	Oct	-
11/21	CPI YoY	Oct	-

インドネシアルピア相場

予想レンジ: **USD/IDR 16400 ~ 16800**
IDR/JPY 0.9000 ~ 0.9400

(注)100インドネシアルピアあたりの対円レート

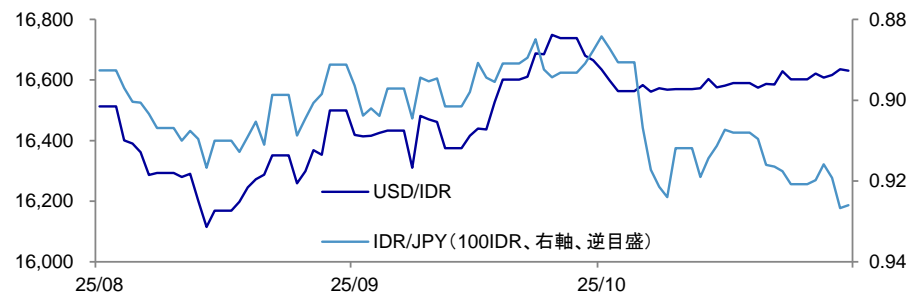
アジア・オセアニア資金部 穴吹 太郎

■ 先月の為替相場

先月のドルルピアは小幅に下落。

月初のドルルピアは16,600台後半で始まったものの、米政府機関閉鎖の報道からルピア高の流れが進行した。2日以降もルピア高の流れが継続し、3日は16,500台半ばで越週した。7日は9月末時点の外貨準備高が1,487億ドルに減少した(8月は1,507億ドル)との報道もあったが、終盤にかけて下落が継続した。8日には、消費者信頼感指数が115.0と2022年4月以来の水準に低下したことで、経済悪化を懸念する動きからルピア売りが優勢となり、一時16,600台前半まで上昇した。9日、16,500台前半まで再び下落したものの、引けにかけては再び水準を戻した。10日以降は、重要な経済指標の公表も特段ない中、16,500台後半の狭いレンジでの値動きが続いた。22日、金融政策決定会合を午後1時に予定する中、追加利下げの事前予想が多かったことから16,600台前半までルピア安が進行した。その後、午後の結果にて政策金利の据え置きが公表されると、ルピア買いが優勢となり、一時16,500台半ばまで下落した。しかし、その後の声明で、引き続きハト派な姿勢が示されたことで、16,600台前半まで巻き戻された。23日もルピア安が小幅に継続し、16,600台半ばまで上昇したが、勢いは続かず24日以降は同水準での値動きに乏しい展開が継続した。30日には、前日に米FOMCで2会合連続での利下げに踏み込むも、十分織り込まれていたことに加え、パウエル議長が12月のFOMCでの利下げに慎重なスタンスを示したことでドルが買われたことで、小幅にルピア安が進行した。中銀総裁の通貨安定発言でやや上値は重くなったものの、全体としてルピア安・ドル高基調が継続した。

■ 為替の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/1	CPI(前年同月比)	9月	2.50%	2.65%	2.31%
10/1	貿易収支(USD M)	8月	4,086	5,488	4,174
10/1	輸出(前年比)	8月	6.50%	5.78%	9.86%
10/1	輸入(前年比)	8月	0.20%	-6.56%	-5.86%
10/22	BI金利		4.50%	4.75%	4.75%

■ 今月の見通し

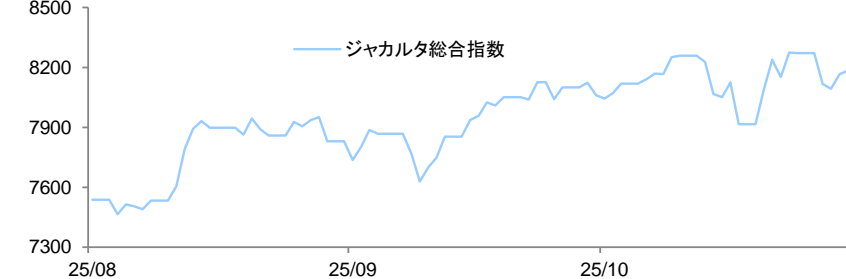
今月のドルルピアは底堅い推移を予想。

先月開催された金融政策会合において、インドネシア中銀は政策金利(BIレート)を予想外に4.75%に据え置くことを決定した。市場の大半は利下げを予想していたため、4会合連続でのサプライズとなった。ペリー総裁は9月の会合で、経済成長の下支えを優先するとしていたものの、9月の利下げ以降、ルピア安が急激に進展したこともあり、やや慎重なスタンスとなった。ペリー総裁は記者会見で利下げ余地に言及する一方で、ルピアの安定維持についても言及をしており、急激なルピア安を警戒したものと考えられる。経済成長を下支えするためにも利下げ余地を模索する一方で、急激なルピア安を警戒しながらの政策運営が続きそうだ。

一方で、米国については2会合連続での利下げが実施されたものの、市場の織込みも相応に進んでいることからドル売りは進展せず。むしろ、パウエル議長が12月利下げに慎重なスタンスを示したことで小幅にドル高が進展。12月の利下げ織込みが後退したものの、依然と利下げ期待が高いこともあり、一段のドル安は限定的なものと思われる。

以上の通り、引き続き、ルピア安地合いが継続するものと予想される。しかし、再びルピアが市場最安値を試すような場面ではインドネシア中銀による為替介入が行われるものと考えられる、そのため、ドル高ルピア安地合いは継続しつつも、上値は押さえられる展開を予想する。

■ 株価指数の動き



■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
11/3	CPI(前年同月比)	10月	2.60%
11/3	貿易収支(USD M)	9月	4,390
11/3	輸出(前年比)	9月	7.28%
11/3	輸入(前年比)	9月	1.90%
11/5	GDP(前年比)	3Q	1.40%
11/19	BI金利		-

フィリピンペソ相場

予想レンジ: **USD/PHP 57.50 ~ 59.50**
JPY/PHP 0.380 ~ 0.400

アジア・オセアニア資金部 マニラ室 福田 俊輔

■ 先月の為替相場

【10月は月末にかけて史上最安値を更新、初の59ペソ台前半へ】

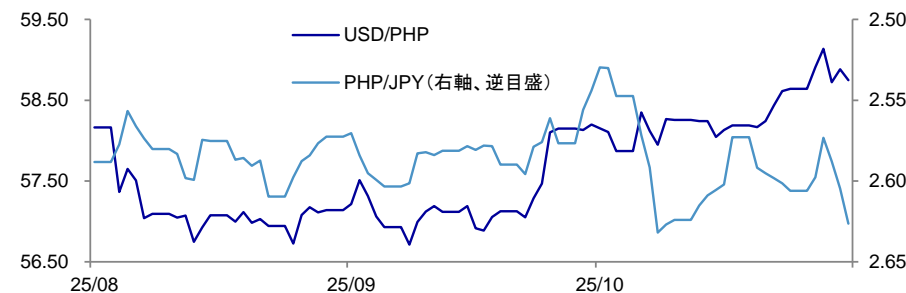
10月初は、1米ドル＝58.40ペソで開始。9月下旬に57ペソ台から58ペソ台に駆け上がってきたが、10月前半は経済指標結果等に一喜一憂しながら神経質な値動きが継続。米国の政府機関閉鎖により、労働統計等の公表が無い異常事態となる中、57.80～58.40近辺のレンジ内で何度も往来する展開となった。比9月物価統計は、予想よりも弱い結果だったが、市場参加者は10月9日の比中銀による金融政策決定会合では政策金利の据置きを引続き予想した。しかしながら、サプライズとなる0.25%の利下げが行われ、その後の中銀会見では、治水事業に絡む汚職問題やそれに対する抗議活動等により、企業の投資マインド減退や景気への悪影響を懸念し、政策金利引下げに至った、とのコメントが出された。10月中旬以降もドル買いペソ売り圧力がくすぶるものの、過去何度も跳ね返されている58.40近辺の抵抗線が中々突破できない状況が続いた。しかしながら、10月下旬に入り、特段の材料が無い中であっさり抵抗線を上抜けると、年初来ペソ安値(58.72)近辺まで上昇。その後も警戒感と上値トライが交錯しつつも、上値を追う展開が優勢となり、史上最安値(59.00)を更新。59.26をタッチした後、58ペソ台後半へ反落して月を終えた。

■ 今月の見通し

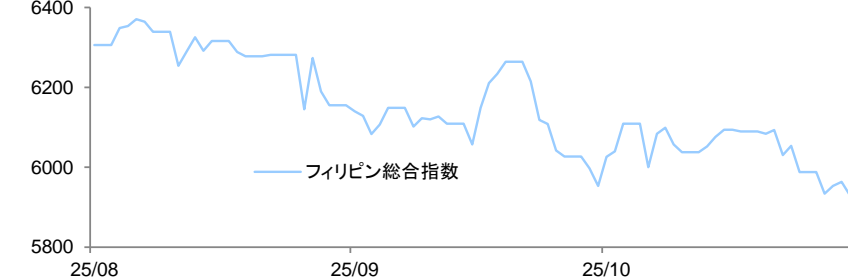
【11月は引続き荒っぽい値動きとなる可能性】

10月末にペソの史上最安値を更新したが、金融政策を決定するメンバーの一人であるジョクノ元中銀総裁のコメントの影響が大きい。年内最後の12月会合でも、0.25%の利下げ余地がある事を示唆。加えて、58ペソ台半ばでペソ安寄りに推移する中、比中銀は特定の為替水準を意識している訳では無く、物価上昇圧力を加速させる懸念がある場合にのみ比中銀は介入をする、という見解を示した。市場参加者は、目先の介入への警戒感が後退したと捉え、59ペソ台を示現したが、その直後に58ペソ台半ばまで急落した。利益確定のドル売りや比中銀による為替介入への懸念と憶測が入り混じりながらの急落だった。次なる上値の目途が見えない中、心理的節目は59.50近辺と予想するが、引続き警戒感は根強く、恐る恐る上値を探りに行く展開となるだろう。一方の米国も、経済指標の状況が不明な中、10月終盤にパウエルFRB議長から12月会合での利下げは既定路線ではないとのコメントにより、一部市場参加者は利下げ予想の修正を迫られ、米金利上昇とドル買いを誘発した。比米ともに、市場参加者の思惑を超えるコメントが続くが、ドルペソ相場は58ペソ台中心の値動き続きそうだ。但し、急変リスクは残存するので要注意。

■ 為替の動き



■ 株価指数の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/7	CPI(前年比)	9月	1.90%	1.70%	1.50%
10/9	BSP翌日物借入金利(政策金利)	-	5.00%	4.75%	5.00%
10/15	在外フィリピン人労働者送金額(前年比)	8月	2.90%	3.20%	3.00%
10/30	貿易収支(100万ドル)	9月	-4,300	-4,352	-3,986

■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
11/5	CPI(前年比)	10月	-
11/7	GDP(前年比)	Q2	-
11/17	在外フィリピン人労働者送金額(前年比)	9月	-
11/28	貿易収支(100万ドル)	10月	-

インドルピー相場

予想レンジ: **USD/INR 87.00 ~ 89.50**
INR/JPY 1.65 ~ 1.85

アジア・オセアニア資金部 インド室 木原 志乃

■ 先月の為替相場

【10月の米ドル/インドルピーは、最安値更新後、調整して往って来い】

88台後半水準にて当月取引を開始。月初から月央にかけては前月の流れを汲んで安値圏で推移するも、じり安の流れに最安値を再び更新。その後、節目の89台を目前にRBIによる為替介入をきっかけに、約1か月ぶりの87台へと調整局面を迎える。一方、月末にかけては、87台後半で底堅くもみ合う展開後、USD買い圧力の台頭や実需勢のフローも相俟って、88台後半まで値を戻す動きを見せた(30日時点)。

SENSEXは、80,000台前半水準で開始後緩やかに上昇。月央には勢いを増し、年初来高値の85,000水準を超える展開となり、同水準での横這い推移が継続した(30日時点)。外国人投資家からのインド株への投資資金流入は、3か月連続での売り越しから10月単月は買い越しへと反転し、資金流入の回帰となるか注視。

インド経済指標では、インド準備銀行(RBI)は10月金融政策委員会(MPC)にて政策金利を全会一致で5.50%に据え置き。6月の利下げ以降では2会合連続。9月貿易収支は▲321億ドルの赤字で、赤字幅は2024年8月以来の水準に拡大した。9月消費者物価指数(CPI、前年比)は+1.54%と前回の+2.07%から伸びが低下した。

■ 今月の見通し

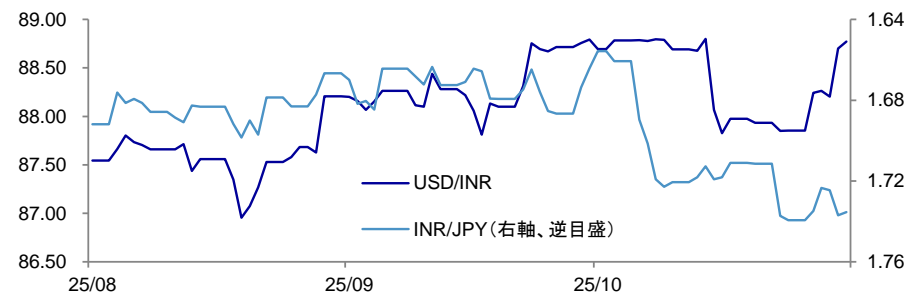
【11月の米ドル/インドルピーは、ルピー安方向も上値は重い】

11月においては、外部要因で上下値幅の伴った動きを伴いつつも、方向感にはルピー安を見込む。トランプ米大統領の関税をめぐる発言に市場は敏感に反応しており、ボラティリティが高い展開が続く可能性も。一方、10月中には節目の89台を目前にして、RBIからの上値押さえの為替介入で水準を調整する局面もあり、同様の動きも相俟って上値の重い展開を想定。

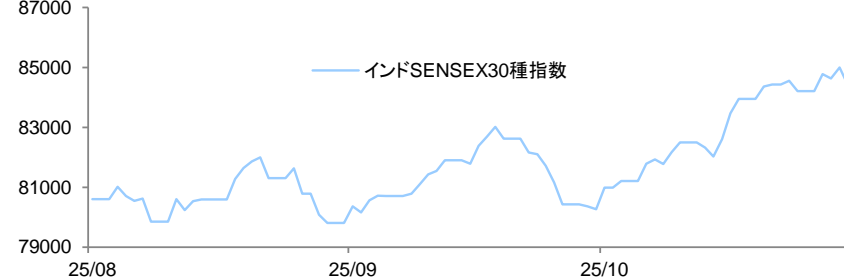
10月のMPCは、政策金利は据え置きとなり、政策スタンスも前回の中立スタンスを維持。「現在のマクロ経済環境と見通しは、成長を更に支援するための政策余地を拡大している」と今後の利下げ余地に言及しつつも、「先行して実施された金融政策措置(これまでの累次の利下げ)や最近の財政政策(GST引き下げ)の効果は継続中」、「貿易関連の不確実性も展開中」、「政策効果の顕在化を待つことが賢明」と説明し、「次の一手」を急がない姿勢を示している。

中長期では、慢性的な経常赤字体質は改善されておらず、RBIのアンダーコントロールは前提としつつ、売られやすい地合いがしばらくは継続すると見込む。

■ 為替の動き



■ 株価指数の動き



■ 先月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想	結果	前回
10/1	政策金利		5.50%	5.50%	5.50%
10/1	製造業PMI	9月	-	57.7	58.5
10/6	サービス業PMI	9月	-	60.9	61.6
10/13	CPI	9月	1.50%	1.54%	2.07%
10/15	貿易収支(百万ドル)	9月	-27,500	-32,145	-26,487
10/28	鉱工業生産	9月	2.90%	4.00%	4.00%

■ 今月の注目イベント

発表日	イベント	期間	予想
11/3	製造業PMI	10月	-
11/6	サービス業PMI	10月	-
11/12	CPI	10月	-
11/14	貿易収支	10月	-
11/28	鉱工業生産	10月	-

■ 為替市場見通し(四半期末の予想レベル)

	2025年 10～12月期	2026年 1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期
先進国					
USD/JPY	151	149	149	151	154
EUR/JPY	178	177	174	175	177
GBP/USD	1.36	1.37	1.38	1.38	1.39
AUD/USD	0.67	0.68	0.69	0.70	0.71
USD/CAD	1.38	1.37	1.36	1.36	1.35
エマージング					
USD/KRW	1400	1390	1370	1360	1350
USD/TWD	30.20	30.00	29.50	29.20	29.20
USD/HKD	7.78	7.78	7.77	7.76	7.76
USD/CNY	7.18	7.14	7.11	7.08	7.05
USD/SGD	1.31	1.30	1.29	1.28	1.28
USD/THB	33.00	32.80	32.50	32.30	32.00
USD/MYR	4.26	4.14	4.07	4.06	4.06
USD/IDR	17000	16560	16600	16600	16650
USD/PHP	58.50	57.50	57.10	56.30	56.10
USD/INR	89.30	88.80	87.60	85.80	85.30

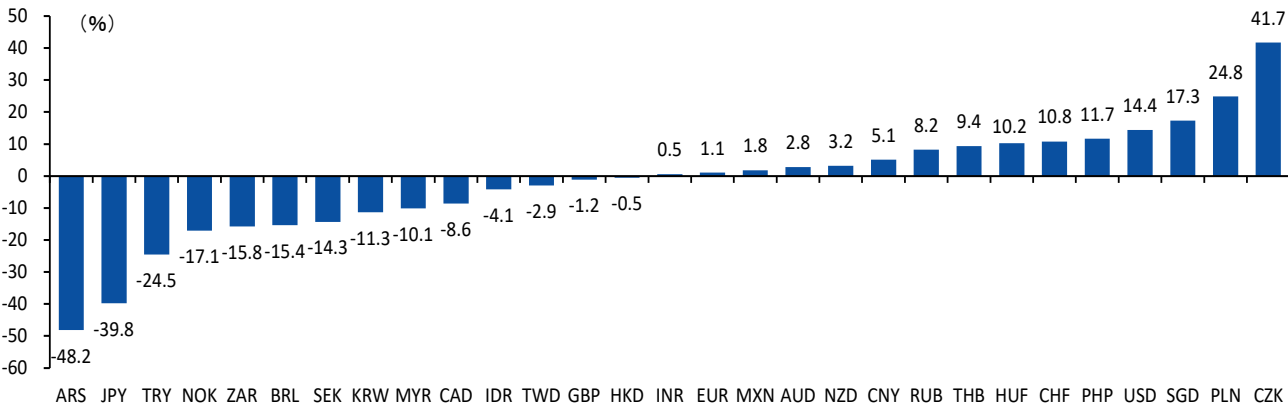
GBP/USD、AUD/USD、USD/CADを除く通貨は中期為替見通し、エマージングマーケットマンスリーに基づく見通しです。

■ 為替市場・株式市場騰落率

	為替市場	2024年末	2025年10月末	騰落率	株式市場	2024年末	2025年10月末	騰落率	USD換算
先進国									
米国	-	-	-	-	NYダウ平均	42544.22	47562.87	11.8%	-
日本	USD/JPY	157.2	153.99	-2.0%	日経平均株価	39894.54	52411.34	31.4%	34.1%
ユーロ圏	EUR/USD	1.0354	1.1537	11.4%	ドイツDAX指数	19909.14	23958.3	20.3%	20.3%
英国	GBP/USD	1.2516	1.3152	5.1%	ロンドンFTSE100指数	8173.02	9717.25	18.9%	13.1%
豪州	AUD/USD	0.6188	0.6545	5.8%	S&P/ASX200指数	8159.143	8881.857	8.9%	2.9%
カナダ	USD/CAD	1.4384	1.401	-2.6%	S&PTロント総合指数	24727.94	30260.74	22.4%	25.6%
エマーGINGアジア									
中国	USD/CNY	7.2993	7.1199	-2.5%	上海総合	3351.763	3954.79	18.0%	21.0%
香港	USD/HKD	7.7686	7.7702	0.0%	香港ハンセン	20059.95	25906.65	29.1%	29.1%
インド	USD/INR	85.6125	88.7712	3.7%	インドSENSEX30種	78139.01	83938.71	7.4%	3.6%
インドネシア	USD/IDR	16132	16631	3.1%	ジャカルタ総合	7079.905	8163.875	15.3%	11.9%
韓国	USD/KRW	1478.6	1429.61	-3.3%	韓国総合株価	2399.49	4107.5	71.2%	77.0%
マレーシア	USD/MYR	4.4718	4.1895	-6.3%	ブルサマレーシアKLCI	1642.33	1609.15	-2.0%	4.6%
フィリピン	USD/PHP	57.979	58.747	1.3%	フィリピン総合	6528.79	5929.68	-9.2%	-10.4%
シンガポール	USD/SGD	1.3657	1.301	-4.7%	シンガポールST	3787.6	4428.62	16.9%	22.7%
台湾	USD/TWD	32.792	30.738	-6.3%	台湾加権	23035.1	28233.35	22.6%	30.8%
タイ	USD/THB	34.351	32.33	-5.9%	タイSET	1400.21	1309.5	-6.5%	-0.6%

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 実質実効為替レート(REER)の1994年以降の平均からの乖離(2025年10月時点)



■ 実質GDP成長率

	2024Q1	2024Q2	2024Q3	2024Q4	2025Q1	2025Q2	2025Q3	2023	2024
	(前年比%、*前期比年率%)							(前年比%)	
先進国									
米国*	0.8	3.6	3.3	1.9	-0.6	3.8		2.9	2.8
日本*	-0.9	1.9	2.3	2.1	0.3	2.2		1.2	0.1
ユーロ圏	0.5	0.5	1.0	1.3	1.6	1.5	1.3	0.4	0.9
英国	0.3	0.9	1.4	1.9	1.7	1.4		0.3	1.1
豪州	1.2	0.9	0.8	1.3	1.4	1.8		2.1	1.1
カナダ*	2.2	2.6	2.4	2.1	2.0	-1.6		1.5	1.6
エマージングアジア									
中国	5.3	4.7	4.6	5.4	5.4	5.2	4.8	5.4	5.0
香港	2.8	3.0	1.9	2.5	3.0	3.1		3.2	2.5
インド	8.4	6.5	5.6	6.4	7.4	7.8		7.6	9.2
インドネシア	5.1	5.1	5.0	5.0	4.9	5.1		5.1	5.0
韓国	3.4	2.2	1.4	1.1	0.0	0.6	1.7	1.4	2.2
マレーシア	4.2	5.9	5.4	4.9	4.4	4.4	5.2	3.6	5.1
フィリピン	5.9	6.5	5.2	5.3	5.4	5.5		5.5	5.7
シンガポール	3.2	3.4	5.7	5.0	4.1	4.5	2.9	1.8	4.3
台湾	6.6	4.9	4.2	3.8	5.5	8.0		1.1	4.8
タイ	1.7	2.3	3.0	3.3	3.2	2.8		2.0	2.5

(注) インドの年間成長率は会計年度(4～3月)。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 失業率

	25/01	25/02	25/03	25/04	25/05	25/06	25/07	25/08	25/09	2023
	(%)									(%)
先進国										
米国	4.0	4.1	4.2	4.2	4.2	4.1	4.2	4.3		3.6
日本	2.5	2.4	2.5	2.5	2.5	2.5	2.3	2.6	2.6	2.6
ユーロ圏	6.3	6.3	6.4	6.3	6.4	6.4	6.3	6.3	6.3	6.6
英国	4.4	4.4	4.5	4.6	4.7	4.7	4.7	4.8		4.1
豪州	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.3	4.3	4.3	4.5	3.7
カナダ	6.6	6.6	6.7	6.9	7.0	6.9	6.9	7.1	7.1	5.4
エマージングアジア										
中国										
香港	3.1	3.2	3.2	3.4	3.5	3.5	3.7	3.7	3.9	3.0
インドネシア		4.8								5.4
韓国	2.9	2.7	2.9	2.7	2.7	2.6	2.5	2.6	2.5	2.7
マレーシア	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0		3.4
フィリピン	4.3	3.8	3.9	4.1	3.9	3.7	5.3	3.9		4.4
シンガポール			2.0			2.0			2.0	1.9
台湾	3.4	3.4	3.4	3.4	3.3	3.3	3.3	3.4	3.4	3.5
タイ			0.9			0.9				1.0

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 消費者物価上昇率

	25/01	25/02	25/03	25/04	25/05	25/06	25/07	25/08	25/09	2023	2024
	(前年比%)									(前年比%)	
先進国											
米国	3.0	2.8	2.4	2.3	2.4	2.7	2.7	2.9	3.0	4.1	3.0
日本	4.0	3.7	3.6	3.6	3.5	3.3	3.1	2.7	2.9	3.3	2.7
ユーロ圏	2.5	2.3	2.2	2.2	1.9	2.0	2.0	2.0	2.2	5.5	2.4
英国	3.0	2.8	2.6	3.5	3.4	3.6	3.8	3.8	3.8	7.3	2.5
豪州			2.4			2.1			3.2	5.6	3.2
カナダ	1.9	2.6	2.3	1.7	1.7	1.9	1.7	1.9	2.4	3.9	2.4
エマージングアジア											
中国	0.5	-0.7	-0.1	-0.1	-0.1	0.1	0.0	-0.4	-0.3	0.2	0.2
香港	2.0	1.4	1.4	2.0	1.9	1.4	1.0	1.1	1.1	2.1	1.8
インド	4.3	3.6	3.3	3.2	2.8	2.1	1.6	2.1	1.5	5.7	5.0
インドネシア	0.8	-0.1	1.0	2.0	1.6	1.9	2.4	2.3	2.7	3.8	2.3
韓国	2.2	2.0	2.1	2.1	1.9	2.2	2.1	1.7	2.1	3.6	2.3
マレーシア	1.7	1.5	1.4	1.4	1.2	1.1	1.2	1.3	1.5	2.5	1.8
フィリピン	2.9	2.1	1.8	1.4	1.3	1.4	0.9	1.5	1.7	6.0	3.2
シンガポール	1.2	0.9	0.9	0.9	0.8	0.8	0.6	0.5	0.7	4.8	2.4
台湾	2.7	1.6	2.3	2.0	1.5	1.4	1.5	1.6	1.3	2.5	2.2
タイ	1.3	1.1	0.8	-0.2	-0.6	-0.3	-0.7	-0.8	-0.7	1.3	0.4

(注) 豪州は四半期データ。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 経常収支

	2023Q4	2024Q1	2024Q2	2024Q3	2024Q4	2025Q1	2025Q2	2023	2024
	(対GDP比%)							(対GDP比%)	
先進国									
米国	-3.3	-3.4	-3.5	-3.8	-4.0	-4.5	-4.4	-3.3	-4.1
日本	3.8	4.4	4.6	4.7	4.8	4.9	4.9	3.8	4.8
ユーロ圏	1.7	2.2	2.7	2.8	2.7	2.4	2.1	1.7	2.7
英国	-3.6	-3.4	-2.8	-2.6	-2.2	-2.3	-2.6	-3.6	-2.2
豪州	-0.3	-0.7	-1.2	-1.4	-1.9	-2.1	-2.1	-0.3	-1.9
カナダ	-0.6	-0.6	-0.5	-0.4	-0.5	-0.4	-0.9	-0.6	-0.5
エマージングアジア									
中国	1.5	1.3	1.3	1.7	2.3	2.9	3.2	1.4	
香港	8.5	10.1	11.9	12.0	12.9	13.8	13.5	8.5	12.9
インド	-0.9	-0.7	-0.7	-0.8	-0.8	-0.6	-0.4	-0.9	-0.8
インドネシア	-0.2	-0.6	-0.6	-0.6	-0.6	-0.5	-0.5	-0.2	-0.6
韓国	1.8	3.3	4.5	4.9	5.4	5.8	5.8	1.8	5.3
マレーシア	1.1	1.4	1.1	0.8	1.4	1.8	1.6	1.1	1.4
フィリピン	-2.9	-2.3	-2.6	-3.2	-4.0	-4.4	-4.0	-2.8	-4.0
シンガポール	17.7	17.5	17.3	17.4	17.5	17.7	18.0	17.7	17.5
台湾	14.0	15.1	14.7	14.3	14.2	14.0	14.8	14.0	14.2
タイ	1.7	1.8	2.3	2.0	2.2	3.4	3.6	1.7	2.2

(注) インドの年間経常収支は会計年度(4～3月)。

(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

■ 世界の政策金利

			政策転換期		直近の政策動向		
			現在の水準(%)	日付	水準(%)	日付	決定事項
先進国							
米国	FFレート誘導目標	3.75-4.00	緩和:	2024/9/18	5.25-5.50	2025/10/29	-25bp
日本	当座預金残高の政策金利	0.50	引き締め:	2024/3/19	-0.10	2025/10/30	現状維持
ユーロ圏	預金ファシリティレート	2.00	緩和:	2024/6/6	4.00	2025/10/30	現状維持
英国	バンク・レート	4.00	緩和:	2024/8/1	5.25	2025/9/18	現状維持
豪州	キャッシュ・レート	3.60	緩和:	2025/2/18	4.35	2025/9/30	現状維持
カナダ	翌日物金利	2.25	緩和:	2024/6/5	5.00	2025/10/29	-25bp
エマージングアジア							
中国	1年物最優遇貸出金利(LPR)	3.00	緩和:	2012/6/8	6.31	2025/10/20	現状維持
インド	翌日物レポ金利	5.50	緩和:	2025/2/7	6.50	2025/10/1	現状維持
インドネシア	BI金利	4.75	緩和:	2024/9/18	6.25	2025/10/22	現状維持
韓国	7日物レポ金利	2.50	緩和:	2024/10/11	3.50	2025/10/23	現状維持
マレーシア	翌日物金利	2.75	緩和:	2025/7/9	3.00	2025/9/4	現状維持
フィリピン	翌日物金利	4.75	緩和:	2024/8/15	6.50	2025/10/9	-25bp
台湾	再割引金利(公定歩合)	2.000	引き締め:	2022/3/17	1.125	2024/12/19	現状維持
タイ	翌日物レポ金利	1.50	緩和:	2024/10/16	2.50	2025/10/8	現状維持
ベトナム	リファイナンス金利	5.00	緩和:	2023/3/31	6.00	2023/5/23	-50bp

(注)インドネシア中銀は2023年12月21日に政策金利を7日物リバースレポレートからBI金利に変更

(資料)ブルームバーグ、みずほ銀行